

学校再整備に向けた検討状況の報告

— 1年の延期を受けた今後の取組ほか —

「新しい学校施設は、探究学習の拠点であり、
地域に開かれた多世代がつながる共創空間としての
「イノベーションコモンズ」について、より実践的
なアプローチによる研究を進めるなど、多くの可能
性を見込んでおります。」

令和8年度（2026年度）町長施政方針より

〈教育委員会の取組〉

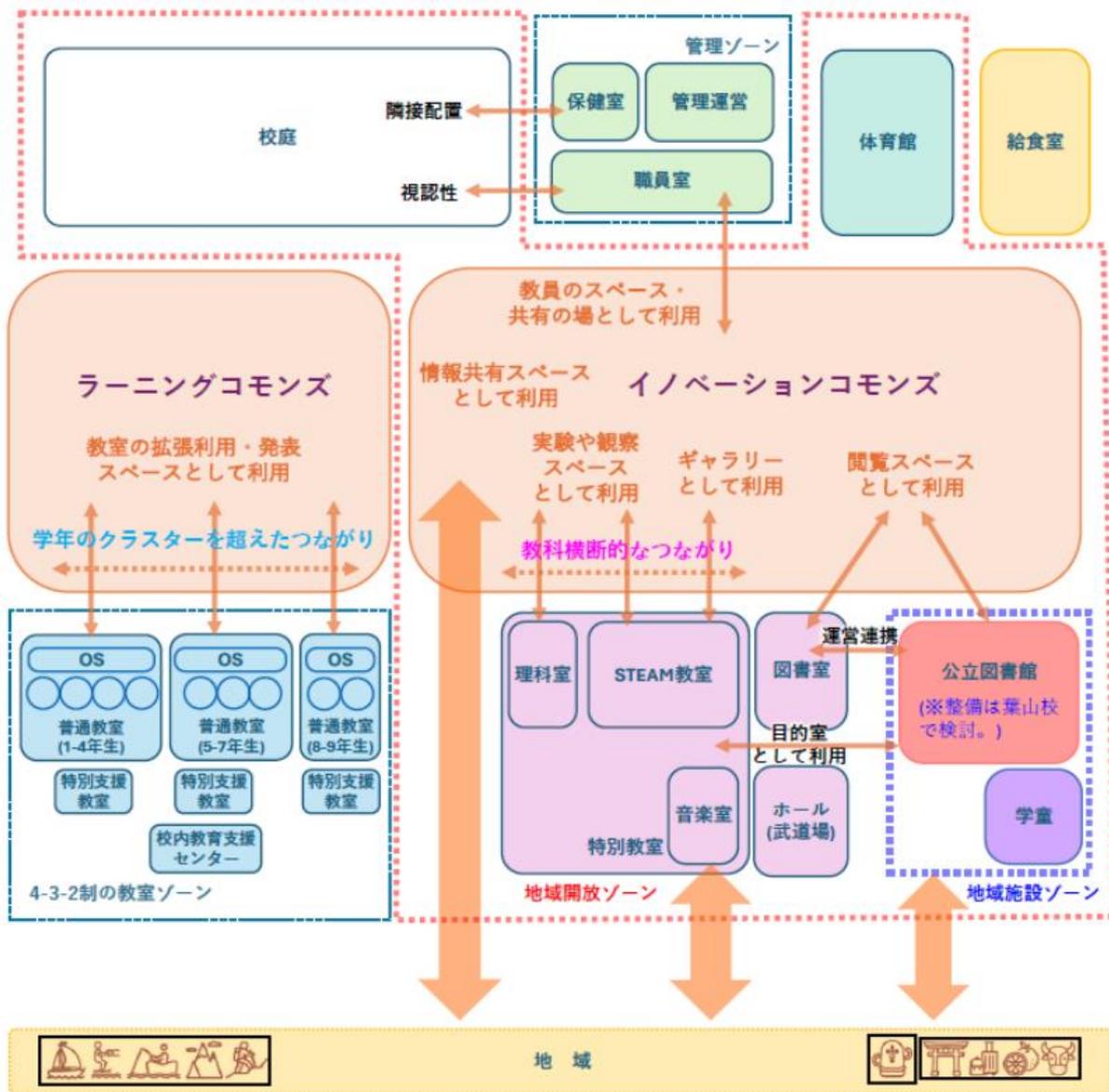
- 1 地域に開かれた多世代がつながる共創空間の運用実験
- 2 新しい授業実践を通して、教室等のあり方を考える
- 3 工事工程の再検討
- 4 既存学校の修繕

〈葉山町の取組〉

「これまで教育委員会や学校関係者、保護者、専門家の意見を伺いながらとりまとめてきた基本計画を踏まえ、財源の確保や地域社会への波及効果など、多面的な視点から議論をさらに深める年とし、広くご意見をいただいたうえで、実施設計へと移行してまいりたいと考えております。」

令和8年度（2026年度）町長施政方針より

1 地域に開かれた多世代がつながる共創空間の運用実験



イノベーション

新たな価値を生み出す

commons

集う・共有する空間

- 開かれた学校のフロント
- 多様な学び場・居場所のひとつ
- 生涯学習拠点
- まちづくり拠点
- 図書館との融合
- その他

令和8年度は、既存の学校の図書室や図工室等をイノベーションコモンズに見立てた運用実験を計画中

〈実験を通して〉

- 学校再整備は、単なる校舎の建て替えではなく、新しい公共空間を創造する挑戦でもあることを多くの町民と共有したい
- 新しい公共空間をともに創造し、運営する仲間とつながりたい

2 新しい授業実践を通して、教室等のあり方を考える

令和7年度 一色小学校 6 - 3 取組事例

私たち
6年3組
総合学習
取り組み

学校UD化！

～”みんな”がわかりやすい学校へ！～

- 課題設定！
- 情報収集！（全校アンケート）
- 分析！整理！（提案文作成）
- 実行！（プロトタイプ作成・実施）

わからない」「わかりにくい」と
嘆くのではなく自分たちで解決していく



理想の教室の作り方：みんなが集中できる学習環境



未来の小中一貫校づくりに
自分たちの声を！！

by 6-3 一同

1 2 のスケジュール (素案)

1 共創空間 (イノベーションコモンズ) の運用実験

夏休み前までに

運用実験企画

年内の一定期間イベント的に

運用実験 (複数個所が理想)

**企画段階から、できる限り
新しい公共空間をともに創造し、運営する仲間とともに**

2 新しい授業実践を通して考える

年間を通して

授業の中で・教育委員会学校プラットフォームで・上記運用実験で

現場の声を漏らすことなく設計へ

3 工事工程の再検討

葉山小学校を使いながら

騒音・振動・粉じん等の影響があり、着工後も、度々、学校と工事請負業者等の調整が必要となるため、更地工事より高額かつ工事請負業者に敬遠されやすい傾向がある

一色小学校に仮設校舎

十分な環境ではない中で1000人超の児童を預かったり、2度の引越をしたりするより、葉山小学校を使いながらのほうがよい、という学校からの再検討要望

工事工程は、設計業務の中で検討する事項であるが、学校要望があったので工事工程の違いによるコストや工期の影響を可能な限り比較検討する

(令和8年度当初予算に業務委託料を計上)

第2回楽校をつくろう! ワークショップ 開催報告

令和8年1月21日(水) 16時~18時
教育総合センター 2階 学びのひろば

ワークショップの参加者数

合計で27名の参加がございました。

内訳	人数
小学校 1 年生	2
小学校 2 年生	4
小学校 3 年生	4
小学校 4 年生	7
小学校 5 年生	3
小学校 6 年生	1
大人	6

所属内訳	人数
葉山小学校	5
長柄小学校	2
一色小学校	12
その他学校 (清泉小学校・鎌倉市)	2
教員	1
教育委員会職員	4
地域活動推進員	1

楽校をつくろうWS開催報告



ワークショップの成果と今後の展開

子どもならではの視点や多彩なアイデアを可視化できたことで、新しい学校への期待や関心の高さが伺え、実りが多いワークショップとなった。

地域と連携しながら学校環境の将来像を共に考える場として、引き続き取り組みを進めていく。

